

令和6年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和7年4月30日現在

研究課題名	戦時下ロシアにおける財政ルールと国民福祉基金の機能について	
申請者	氏名	所属機関・職
	日臺 健雄	和光大学経済経営学部・教授

研究成果の概要

ロシアのように資源輸出に依存する経済構造では、国際原油価格の変動が税収を媒介として国家財政に影響を与えることから、国際原油価格が下落すると税収も減少し、財政支出による景気刺激策をとることが難しくなる。この国家財政における脆弱性を克服する必要性を認識したプーチン政権は、具体的な対策として、2004年1月に「安定化基金」という名称の予算外基金を創設し、2008年2月の再編を経て、現在は「国民福祉基金」がロシア版ソブリン・ウェルス・ファンドとして機能している。本研究では、この国民福祉基金が戦時経済下のロシア財政において果たしている機能を、税収を同基金に繰入れる「財政ルール」を視軸として検討していった。

なお、本研究の成果は下記の雑誌論文ならびに研究報告において発表されている。また、「戦時経済」を視軸とした比較研究としてプーチン期とスターリン期の戦時経済システムを比較する研究も進めており、後者の研究を発展させる形で下記のとおり2025年度～2027年度の科学研究費助成事業（基盤研究（C））が採択されている。

【学会での研究報告】（2024年度の主要なもの）

・日臺健雄「戦時下ロシアの石油・ガス収入と国民福祉基金」北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター SRC セミナー，2024年7月13日

・HIDAI Takeo “Russia’s Fiscal Rules and Sovereign Wealth Fund under the Wartime Economy”

17th Conference, World Association for Political Economy, 2024年8月3日

・日臺健雄「戦時下ロシアにおける財政ルールとソブリン・ウェルス・ファンド」日本財政学会第81回全国大会 2024年10月12日

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

雑誌論文

日臺健雄「ロシアの財政ルールと国民福祉基金：戦費調達背景にある資金メカニズム」

『ロシアNIS調査月報』第69巻第5号，2024年5月（pp.24-31.）

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

科学研究費助成事業 基盤研究（C）

「戦後復興期ソ連における市場メカニズムの機能：1947年通貨改革とコルホーズ市場の変化」

研究代表者：日臺健雄 研究期間：2025年度～2027年度

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。